

さんぽ

松原商工会議所と
阪南大学生が作った
まつばらの
散策&
情報マップ



松原市は、温かな気候と住みやすい地理的環境により、古くから人々が住んできました。なかでも池内遺跡や上田町遺跡によって、弥生時代から丹比野の地に人々が農耕生活をしてきたことが知られています。

温和で住みやすい街——松原市

松原市は、温かな気候と住みやすい地理的環境により、古くから人々が住んできました。なかでも池内遺跡や上田町遺跡によって、弥生時代から丹比野の地に人々が農耕生活をしてきたことが知られています。

松原市の古代〜市の誕生

交通の要所
古墳時代以降、狭山池や依羅(よさみ)池、また数多くの灌漑(かんがい)が開墾され、各地に皆や城が築かれました。大堀、丹下城、松原城、三宅、別所城、津屋城などがそれです。江戸時代になると、高木水正正次は「万石を領して丹南村に陣屋をおきました。」

■内乱の時代
南北朝から戦国時代までは内乱が続き、各地に皆や城が築かれました。大堀、丹下城、松原城、三宅、別所城、津屋城などがそれです。江戸時代になると、高木水正正次は「万石を領して丹南村に陣屋をおきました。」

■新大和川完成
宝永元年(1704)には新大和川が完成し、その結果、旧大和川筋の水害を軽減しましたが、新大和川筋は豊かな村が狭められ、良田を失い、水害がたびたび起こりました。また、西除川の流路をかえ、川跡を新田に開発しなければなりません。

まつばらを知る

日本書紀には、第18代反正(はんせい)天皇がこの地に丹比紫籬宮をおかれて、わが国の政治、経済文化の中心地となり、五穀がよく実り、人々は心地よい、天下太平であったと記されています。そのち丹比紫籬宮跡は「松生いし丹比の松原」といわれるようになり、松原の地名の由来はここから名付けられたと伝えられています。また、全国で5番目に大きい前方後円墳の大塚山古墳があります。これは、陵墓参考地です。

■古代交通の施設
奈良、平安時代には、さらに交通網が整備され、長尾街道の西除川付近では、駅家(しまや)という古代交通の施設が作られ、中高野街道や下高野街道が整備されています。

■町制施行
昭和30年2月1日、前2町3村が、町村合併促進法により合併して、府内21番目の市として、松原市が誕生しました。その後、美原町の丹南(たんなん)、堺市の河合(かわい)を合併し、そして若林の一部が八尾市に編入されて現在にいたります。

■松原市の誕生
昭和30年2月1日、前2町3村が、町村合併促進法により合併して、府内21番目の市として、松原市が誕生しました。その後、美原町の丹南(たんなん)、堺市の河合(かわい)を合併し、そして若林の一部が八尾市に編入されて現在にいたります。

■大塚山古墳
松原市と羽曳野市との市界にまたがって位置する古墳です。墳丘長335m、前方部幅230m、後方部幅185mを誇る前方後円墳で、墳丘長では、全国で5番目に大きい。前方後円墳です。墳丘の外周には周溝が廻り、周溝を含めた全長は420mにも及びます。

■柴籬神社(しばがきじんじや)
明治22年、町村制により、松原(まつばら)村、天美(あまみ)村、布忍(ふしの)村、恵我(えが)村が生まれ、明治29年に(三宅)みやけ村と共に中河内郡に属し、昭和17年7月に松原市、昭和22年に天美村がそれぞれ町になりました。

まつばらを巡る

松原市域は、古代より多くの人々が往来する交通の要衝で、たくさんのお店や街道が今も伝わっています。ここではそれら古道や街道について一部をご紹介します。

難波大道【なにわだいどう】
昭和55年(1980)、大和川今池遺跡の発掘調査で両側溝を備え、南北直線方向に伸びる飛鳥時代の道路跡が発見されました。道路幅は側溝芯々幅で19mもあり、当時の一級官道としての規模を備えたもので、また発見されたその位置が難波宮中心線に合致することから、記紀に見える難波宮から飛鳥宮に至る大道に相当するものであると考えられ、「難波大道」と命名されました。

下高野街道【しもこうやかいどう】
市域の西部を縦断する街道です。浪速や住吉大社方面から至って、天美地区では阿麻美許曾神社の参道ともなります。その後西除川の堤防上を過って南下し、大阪狭山市で中高野街道と合流して高野山へ向かいます。

中高野街道【なかこうやかいどう】
市域中央部を南北に縦断する街道です。大阪市平野区の大念佛寺付近から発し、大阪狭山市で下高野街道と合流して高野山へ向かいます。

古市街道【ふるいちかいどう】
摂津平野郷と南河内の古市を結ぶ準幹線道路でした。終点の古市で竹内街道に繋がります。

長尾街道【ながおかいどう】
市域の中央を東西に走る街道です。中世から近世において、商業都市や浪速を中心とした産業の流通や人々の伊勢詣や熊野詣、高野詣などによって発展した街道と考えられます。市域でも中高野街道と交わるころなどは、明治時代まで御茶屋などがあって、「阿保茶屋」と呼ばれて、にぎわったそうです。

竹内街道【たけのうちかいどう】
市域の南部分を東西に横断する街道です。旧堺町方面から南東斜めに下ったあと東進し、二上山と葛城山の間の竹之内峠を越えて葛城市の長尾神社に至ります。中世から近世において、商業都市や浪速を中心とした産業の流通や人々の伊勢詣や熊野詣、高野詣などによって発展した街道と考えられ、明治時代まで、中高野街道との交差点付近などは、御茶屋などがあってたいへん賑わったそうです。

住吉街道【すみよしかいどう】
中高野街道の新堂付近と長尾街道の高見の里付近とを斜めに結ぶバイパス的な街道で、斜向道の痕跡でもあります。

松原市は歴史と文化の街

松原市には国の登録有形文化財 大阪府や松原市の指定有形文化財をはじめ、綿々と受け継がれてきた文化遺産が数多く残されています。マップ片手に散策してみませんか。

■中山家住宅(国の登録有形文化財)
別所6丁目所在する中山家住宅は、江戸時代に庄屋や大庄屋をつとめた農家の住宅で、主屋(おもむ)は文化2年(1805)に完成し、奥座敷は天保6年(1835)に増築されています。近世後期の先進農業地域における豪農の屋敷構えの様子がよく理解できる代表的かつ重要な建造物です。

■布忍神社本殿
北新町2丁目所在の本殿は江戸時代初期の一間社流造、檜皮葺の様式です。身舎の木鼻肘木や葺皮が豪華で力強く、前代の桃山様式を受け継いでいます。同時に、建立時と思われる寛文3年(1663)に、武重長久や無病息災を祈って奉納された木札も府指定文化財となりました。

■大塚山古墳
丹南3丁目所在の来迎寺には、樹高15m、直径1.27m、幹周り41m、枝張り12m、樹齢500年以上を重ねる大いびきの姿が望めます。本市を代表する名木といえます。

■大塚山古墳
丹南3丁目所在の来迎寺には、樹高15m、直径1.27m、幹周り41m、枝張り12m、樹齢500年以上を重ねる大いびきの姿が望めます。本市を代表する名木といえます。

■大塚山古墳
丹南3丁目所在の来迎寺には、樹高15m、直径1.27m、幹周り41m、枝張り12m、樹齢500年以上を重ねる大いびきの姿が望めます。本市を代表する名木といえます。

まつばらを観る

■田中家住宅(高見の里) 文化財
高見の里3丁目所在する田中家住宅は、明治初期の農家建築で、主屋は町屋風の入母屋造り、棧瓦葺。外堀には虫籠窓風の開口がしつらえられています。

■田中家住宅(南新町) 文化財
南新町1丁目所在する田中家住宅は、主屋は宝永6年(1709)の建築。文政年間(1818〜1830)に大増改築を行い、長屋門も建て替えられました。

■大塚山古墳
丹南3丁目所在の来迎寺には、樹高15m、直径1.27m、幹周り41m、枝張り12m、樹齢500年以上を重ねる大いびきの姿が望めます。本市を代表する名木といえます。

■大塚山古墳
丹南3丁目所在の来迎寺には、樹高15m、直径1.27m、幹周り41m、枝張り12m、樹齢500年以上を重ねる大いびきの姿が望めます。本市を代表する名木といえます。

■大塚山古墳
丹南3丁目所在の来迎寺には、樹高15m、直径1.27m、幹周り41m、枝張り12m、樹齢500年以上を重ねる大いびきの姿が望めます。本市を代表する名木といえます。

開運松原六社参り
期間:1月1日〜15日

「開運松原六社」(アイウエオ順)
・阿保神社
・阿麻美許曾神社
・我堂八幡宮
・柴籬神社
・布忍神社
・屯倉神社
※松原市には数多くの神社が鎮座しています。六社参りは、神職常駐の神社にて執り行います。

開運松原六社参りとは、松原市内に鎮座する布忍神社・我堂八幡宮・屯倉(みやけ)神社・阿保(あお)神社・柴籬(しばがき)神社の5座に大阪市東住吉区の阿麻美許曾(あまみこそ)神社をあわせた6座の神社をお正月の元旦から15日までに参詣する行事です。近年、ますます人気を呼び、市内外から多くの参拝者が訪れるようになりました。この期間だけでなく、四季折々の趣ある歴史スポットに立ち寄りませんか。

1 阿麻美許曾神社
2 我堂八幡宮
3 布忍神社
4 柴籬神社
5 阿保神社
6 屯倉神社

松原のリーディングインダストリー
技術力×創造力
松原市が全国に誇る地場産業

金網工業
松原の金網工業が得意とする極めて細かい織目のハイメッシュ。精密電子部品や基板などの高精度に用いられるスクリーン印刷用メッシュを筆頭に、先端技術分野のニーズに技術革新で応えます。

真珠核製造業
日本が世界に誇る美しいアコヤ真珠。松原は、その真珠の素となる真珠核を製造する国内有数の産地です。真珠養殖は、母貝(アコヤ貝)に真珠核(ヒース(細胞))を挿入し、真珠殻を形成させ、その中で真珠層が核を輝かし、真珠へと生まれかえります。

印材製造業
日本特有の印鑑文化を支える印材製造。松原は、水牛を使用した印材における国内No.1の生産量を誇っています。

市内の真珠核製造事業者数 10社
市内の金網工業事業者数 20社
スクリーン印刷用メッシュ国内生産量シェア 約90%

市内の印材製造事業者数 11社
水牛を使用した印材生産量 国内第1位
印材の国内生産量シェア 約80%

※数値は2009年6月時点の資料より

このマップ制作に関して
阪南大学 流通学部
流通学科の
神澤せみ、平山せみの
学生さんに取材協力
していただきました。

資料提供・協力
【松原市】総務部/市政情報室・人権文化室
教育委員会事務局
生涯学習部/地域教育振興課
市民生活部/産業振興課
都市整備部/公園緑地課
【財】松原市文化情報振興事業団

このマップについてのお問い合わせは
松原商工会議所
〒580-0043 大阪府松原市阿保1-2-30
TEL.072-331-0291(代)
FAX.072-332-5720
ホームページ http://www.matsubara-cci.or.jp/

企画協力 松原ブランド研究会
〒580-8502 大阪府松原市天美東5-4-33
阪南大学研究部 研究助成課内
ホームページ http://www.hannan-u.ac.jp/
ホームページ http://www.hannan-u.ac.jp/
ホームページ http://www.hannan-u.ac.jp/
松原ブランド研究会は平成22年5月28日に、松原市・阪南大学・松原商工会議所一般市民が
和歌山県・和歌山県・和歌山県・和歌山県・和歌山県・和歌山県・和歌山県・和歌山県
地域の活性化に貢献することを一つの目的として設立されました。

参詣方法
【開運松原六社参り】をされる方は、正月の元旦から15日の間に、最初にお参りの神社において「開運松原六社参り」絵馬(絵馬初穂料500円)を授与して頂きます。参拝はどの神社から始めても構いませんが、各神社では必ず絵馬に参拝印を押してください。六社参拝満願いたしましたら、最初の神社にもう一度お参りいただき、六社参拝記念の「開運干支張り子」を神社よりお受けください。